

第61回島根県保育研究大会を邑智郡で開催します。

期日 平成29年11月4日(土)
場所 元気館(邑南町健康センター)
記念講演 明橋 大二氏
 (子育てカウンセラー・心療内科医)



浜田市で大勢の参加者が集って盛会のうちに閉会した「第60回大会」..

いよいよ来年度『第61回大会』は邑智郡で開催です。

平成30年は保育所保育指針の改定もあります。会員のみなさん!一緒に、「子どもたちの保育について&健やかな発達のための支援について」大いに語り合しましょう。

四方を山々に囲まれ豊かな自然がいっぱい&のどかな田舎町です。交通の便は、かなり不便ですが、

「みなさん 元気館に来ちゃんさ〜い! 待ってま〜す!!」



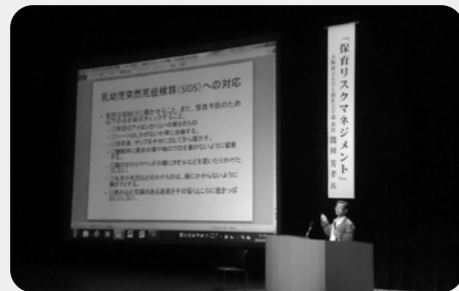
第61回島根県保育研究大会 実行委員長
邑智/出羽保育園/古川 浩子



平成28年度「保育所職員研修会」を開催しました

期日 平成28年9月3日(土)
会場 出雲市民会館 大ホール
内容 講義 『保育リスクマネジメント』
 講師 大阪府立大学人間社会学部 教授 関川 芳孝氏

- 参加者の声**
- ガイドラインの作成や委員会の立ち上げをしなくてはと感思しました。
 - 様式や事例をたくさん使っており、とてもわかりやすい内容でした。
 - 日頃の保育や事故について、改めて考えさせられ、他人事ではないと感じました。
 - リスクを考えるよい機会でした。
 - 事故対策・リスクマネジメントについて、大事なことにも関わらず、グレーな部分が多く、はっきりとわからない事が多かったので参加してよかったです。
 - 園として意思統一を図りたいと思いました。事故防止に役立つ情報が聞けました。
 - これからの「自分」だけでなく、「園」全体の事を考え、そして子どもの安全について考えるよい機会となりました。



参加者数 153名

編集後記

近年、大きな地震が日本のあちらこちらで発生して、多くの方が被災され心を痛める昨今です。今大会の記念講演で豊田直巳氏のファイナダーからの映像に、つくづく子どもの幸せは大人の責任であると感じました。子どもたちの最も身近にいる保育現場の私達。これからもたくさんの笑顔の為に共に学び合いながら頑張っていきたいですね。

島根県 2017 January No.56

保育協議会だより

第56号

発行日 平成29年1月15日 発行者 島根県保育協議会 編集者 総務広報委員会

第60回 島根県保育研究大会

記念講演 「子どもの命を巡る大人の責任

～戦場とこと～

講師：フォトジャーナリスト 豊田直巳氏

11月5日、石中央文化ホール(浜田市)にて開催しました「第60回島根県保育研究大会」から、フォトジャーナリスト豊田直巳さんによる記念講演の概要を紹介します。

講師の豊田直巳さんは、世界各地の戦地や福島原子力発電所の事故の実態を広く伝えようと撮影取材を行うフォトジャーナリストです。

講演会では、取材写真や映像を交えながら戦地や被災地の実態に迫ると共に、取材を通して感じてこられた「子どもの命を巡る大人の責任」について語っていただきました。

まず焦点をあてられたのは、現在も武力衝突が続いているパレスチナ問題です。パレスチナの子供達をとらえた30年分の写真を投影後、「自衛として戦争が繰り返されているが、事態は全く好転していない。パレスチナの人々は難民となっても職がなく、難民キャンプで生きる術しかない。そんな状況が70年間も続き、ISに関心を持つ若者も始めている」と解説。ISを生み出してしまったイラク戦争、白血病や免疫不全や異常出産の原因とみられる放射能兵器「劣化ウラン弾」を使用し始めた湾岸戦争にも迫られ、「戦争は子ども達の未来や希望、人間としての尊厳を奪うだけで何も解決しない」と訴えられました。

また原子爆弾の被爆国である日本が一連の戦争を支持する点も問題視され、「第二次世界大戦中の日本軍による原子爆弾や毒ガス爆弾の製造」や「戦後、全国各地や中国に廃棄された毒ガス爆弾による甚大な被害」「日本は核兵器を作る能力を放棄しない」とした石破茂衆議院議員による発言などを挙げられ、「我が国には核兵器に対する被害者意識はあっても、加害者意識が欠如している」として「社会の在り方が国を動かす。自分達が暮らす社会について考えてみるべき」と問いかけられました。

福島第一原子力発電所の爆発については、事故翌日から駆け付けて目にした放射能汚染地帯の状況を克明に語



られ、その後の八百日間をとらえたドキュメンタリー映画『遺言～原爆さえなければ』の一部を上映。「私達が忘れてはならないのは大量の被爆者を生み出してしまったという事実」と述べられ、一時帰宅でわが家を見て失望する夫婦、何事もなかったかのように壊され始めた負の遺産、矛盾の多い除染作業の実態、「我が子を被爆させてしまった」と苦悩する母親など取材で見聞きした事柄を訴えかけるように紹介されました。

最後に「この事故で一番の被害者は言うまでもなく子ども達。福島原発事故を起こしてしまった当時、大人だった私達はその責任から逃れられないのではないか。少なくとも私は事故が起きる以前にチェルノブイリで取材し、放射線測定器を持ち、放射能の怖さを訴えてきたにもかかわらず、結果的にこの事故を起こしてしまった。もう元に戻すことはできないが、多くの方にこの現実を伝え続けることで責任の一部を引き受けていきたい」と静かな口調で結ばれました。

第60回

島根県保育研究大会

◎期日:平成28年11月5日(土) ◎場所:石中央文化ホール ◎参加者数:486名



第1分科会

提案者 出雲市保育協議会 (助言者) 島根大学大学院教育学研究科 教授/原 広治氏

心豊かな子どもの育ちを願って

～一人一人の子どもの心に寄り添った保育者の援助のあり方を探る～

第1分科会では、助言者の原先生を交え7名の研究委員による【公開エピソード協議】を受けてグループ討議を行うという新しい形での分科会の始まりでした。

参加者も多く、30近いグループに分かれて、研究に携わった出雲市の各保育園の先生方がファシリテーターとなり、研究発表や公開エピソード協議について活発に意見交換が行われました。

感想として、子どもが何をしたいのか・どう思っているのかを読み取る力や見守ることの大切さを改めて感じました。日々悩むことも多いですが、こうしたエピソード協議を取り入れることで自分の保育を振り返り、さらには、保育者間同士のつながりも深めていきたい等が報告されました。

子どもや保護者支援の難しさを痛感している時だからこそ、日々の保育を振り返り『子どものありのままを受け止め、自分(の保育)を語り合う』ことの積み重ねが本当に大切であり、このことがよりよい人間関係・職場作りにつながっていくことを改めて学ぶ場となりました。



かのあし/青原保育園/宅野 文子

第3分科会

提案者 雲南保育協議会 (助言者) 島根県雲南保育所 健康づくり係長/松本 恵利子氏

「食いたい」の心を育てたい

～子どもの「食」を支えていく連携～

雲南保育協議会の皆さんが取り組まれた食育の様子が会場いっぱいに展示された中、参加された100名で「食」についての大切さを学び合いました。

グループ討議では食物アレルギーの対応や離乳食を進めていく上での大変さ等の意見も出され、職員間や保護者との連携が今後ますます必要とされることを実感しました。

助言者の雲南保健所松本係長からは、「第3次食育推進基本計画」の重要ポイントについて詳しく説明していただき、保育所における食事のあり方が子どもの体と心の成長に大きく影響するという事を再認識しました。

保育所の役割を考えた時、地域や医療関係者との連携も益々必要とされ、ネットワークの広がりも食育活動に欠かせません。「子どもたちやその保護者が楽しく食に向き合えるような取り組みを多くの人とのかかわりと共にしていきたい」という次への意欲につながる第3分科会となりました。



邑智郡保育研究会/東保育所/松本 文子

第2分科会

提案者 かのあし保育協議会 (助言者) 松江市発達・教育相談支援センター「エスコ」指導主事/吉野 晃子氏

楽しく体を動かす子をめざして

～発達の道筋に沿った遊びの充実を図るための保育の工夫～

100名の参加者は、提案者から保育現場の子どもたちの様子と取り組み、発達表に即した保育の補足説明を受けました。

その後、助言者の吉野晃子先生から、「個々の子どもにあった目標の設定からの手だてや働きかけと実践」、「できないことに目をむけるのではなく保育士が子どもを知ること・見方を変えることがより良い援助につながる」とご講義をいただきました。

保育をする上で必須のキーワードである「発達」と「遊び」。この2つが正確に温かく織り込まれた保育時間はまさに子どもたちが心地よく過ごせる空間になっているに違いないこと。そして、その実現にすぐに取り組みたいと感じさせられた分科会となりました。

かのあし/双葉保育所/朋澤公香



人材育成分科会

チームビルディングにおけるリーダーの役割

6回目の開催となる今回の人材育成分科会は、「チームビルディングにおけるリーダーの役割」というテーマのもと、チーム作りについて学びたいという各園のリーダーが集いました。

はじめに6月に開催された人材ミーティングで株式会社アソビジの中川綾さんから学んだ「チームの発達段階」と「リーダーの役割」について松江ナザレン保育園中出園長より報告、説明がありました。

その後、各グループで各園のチームの現状や課題、チームを活性化させる取り組みを紹介し合い、これからのリーダーのあり方について考え、学び合う活発な討議が行われました。

最後にあさり保育園相山園長より、自園で取り組まれた一人ひとりのかくれた強みを見つけ、生かすストレンクスファインダー・テストの紹介があり「お互いの強みと弱みを認め、生かし合い、生き生きと保育にあたるチーム作りに向けて、今日の討議を生かしていきましょう」とまとめられました。リーダーとしてまた明日から頑張ろうと思えた分科会となりました。



益田市保育研究会/めばえ保育園/田中 文仁

事務分科会

事務職員の知識・スキル・モチベーションの向上をめざして!

事務部会は、浜田市保育連盟で平成16年4月より専門部会として設置され、島根県内の保育組織内では初めての部会となります。

この度の分科会では、事務職員として、それぞれ抱える課題や悩み、役割について検討されている日々の取り組みについての紹介があり、会計・日常業務・パソコン・接遇と4つの部門を設け、それぞれのグループで研修会が企画され、年間を通して部会の仲間と共に研鑽を積んでおられます。

事務部会としての大きな目的は知識・スキルの向上だけに留まらず、保育士の立場とは違う視点からみんなの笑顔を作る事という思いを強く感じました。笑顔作りが自分達のモチベーションの向上に繋がる事を実感し、素晴らしいプラスの連鎖を生み出される事が感じられる分科会となりました。



大田市保育研究会/みどり保育園/岩倉 善光